

2025 年第 31 週の報告です。

伝染性紅斑は今週も警報レベルが続いています。定点当りの報告数はピーク時に比べかなり減少はしましたが、そのまま横ばいの状態が続いています。京都府内では乙訓・南丹・中丹東・丹後の各保健所で警報レベルが継続しており、山城南で今週新たな警報レベルとなりました。

全数報告対象疾患は結核と梅毒がそれぞれ 6 件、レジオネラ症が 4 件、腸管出血性大腸菌感染症が 2 件、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)とアメーバ赤痢がそれぞれ 1 件、百日咳が 36 件報告されました。

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の報告は今年に入って既に 4 件目です。例年は 1～3 件/年のことが多く、届出を開始した 2013 年 3 月以降では過去最多ペースとなっています。また初めての京都府南部地域での感染報告でした。

SFTS は、SFTS ウイルスによる疾患で、主にウイルスを保有しているマダニに刺されることで感染します。また患者や発症したイヌ・ネコなどの伴侶動物の血液や唾液等の体液を介した感染例も報告されています。主な症状は発熱や消化器症状などで、重症例では神経症状・出血傾向・多臓器不全等が見られ、日本における致命率は 27%と推定されています。治療は対症療法が主体となっていますが、2024 年 6 月に新しい抗ウイルス薬（ファビピラビル）が使用可能になり、病状の進行が予期される場合には使用が検討されます。現状で有効なワクチンはありません。感染予防のためには、マダニに刺されないようにすることが重要です。草むらなどに入る際は長袖、長ズボン、手袋、長靴を履くなど肌の露出を避けてください。また、ディートなどの有効成分を含む虫除け剤の使用も有効です。もし、吸血中のマダニに気が付いた際は、無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科）で処置（マダニの除去、洗浄など）を受けてください。また、マダニに刺された後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関を受診してください。

▶[京都府南部で初めて SFTS の報告がありました！（2025 年 7 月 31 日）／京都府感染症情報センター](#)

▶[ダニ媒介感染症の総合ページ：ダニ媒介感染症 | 厚生労働省](#)（外部リンク）

▶[重症熱性血小板減少症候群（SFTS）診療の手引き 2024 年版](#)（外部リンク）